

宮城県訪問看護ステーション連絡協議会 平成29年度 技術研修会

12月16日（日）、宮城県訪問看護ステーション連絡協議会技術研修会がスキルスラボで開催され、看護師30名の方が参加されました。研修会は「血管内留置カテーテルの管理」・「在宅における輸液製剤」・「フットケア」・「おむつの当て方、おむつのはてな」の4つのテーマについて実施されました。

血管内留置カテーテルの管理では、東北労災病院の西條先生より、スライド資料を用いたCVポートとカテーテルについて講義を受けた後に、CVポートシミュレータを使用し、皮膚上からポートの位置の確認とシリンジを用いてパルシングフラッシュの際の圧のかけ方を体験しました。また、カテーテル感染のリスクを下げる為にはハブの洗浄が重要であり、参加者はアルコール綿を使用したハブの15秒消毒を体験することで、ハブの接続面をしっかりと消毒することがポイントとなることを深く理解することができていました。

続いて、昼食を摂りながら株式会社大塚製薬工場の増澤様より在宅における輸液製剤について講演を行っていただき、各グループで積極的な意見交換がなされました。

午後からは、JTFA認定医療フットケアスペシャリストである小山田様よりフットケアについての講習があり、足の観察ポイント・セルフケア指導のポイントを実技を交えて学びました。

最後のおむつ交換の講習では、白十字株式会社の宮城様・外崎様より、おむつの種類を選択するポイントやパッドの当て方を学び、演習ではおむつ交換シミュレータを使用し、実際におむつをあてて模擬尿を流し、おむつの正しい装着方法について体験しながら学んでいました。

参加者は在宅介護をされている方に適切なアドバイスができるよう、各グループ相談し合いながら演習を行っており、訪問看護で活かすことのできる大変実りの多い研修会となりました。

